課長報告（２）

# 令和元年度宮城県児童生徒学習意識等調査の結果について

## １　実施状況

### （１）調査の目的

宮城県（仙台市を除く）の児童生徒における震災の影響と学習・生活に係る取組や意識等を調査することにより，児童生徒の心のケアと一層の学力向上を図る教育施策の企画・立案に活用する。また，各学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの充実を図る。

### （２）調査実施期日

令和元年６月２４日（月）から令和元年６月２８日（金）までの期間で学校事情に合わせた任意の日

### （３）調査対象者（仙台市を除く）

| 対　象（＊1） | 調査事項 | 実施校 | 参加児童生徒数 |
|---|---|---|---|
| 小学校５年生の全児童 | 生活習慣<br>学習習慣 | ２５３校 | １０，２２７人 |
| 中学校１年生の全生徒（＊2） | | １３７校 | １０，３０３人 |
| 学校 | 児童生徒への関わり方<br>指導方法 | 上記の全小・中学校 | |

＊１　義務教育学校，特別支援学校を含む。
＊２　中学校においては，平成２６年度から２８年度までは中学校２年生を対象に実施。

## ２　調査結果の概況（ページ番号は「別冊　令和元年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果」のページ）

### （１）「学力向上に向けた５つの提言」と関連する事項

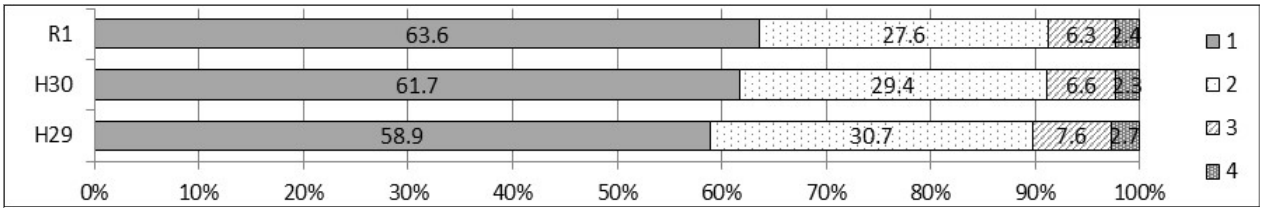
〔改善傾向が見られるもの〕

○　「先生はあなたの話を聞いてくれますか」「授業の中で先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか」という質問に，肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）をしている児童生徒は，緩やかに増加し，９０％を超えている。
○　各学校が指導案に「５つの提言」を明記したり，リーフレット「学力向上に向けた５つの提言－理解　継続　自校化－」（平成２９年度発行）を活用したりするなど，「５つの提言」の実践化が図られてきた成果が見えてきた。（P1 ～ P5）

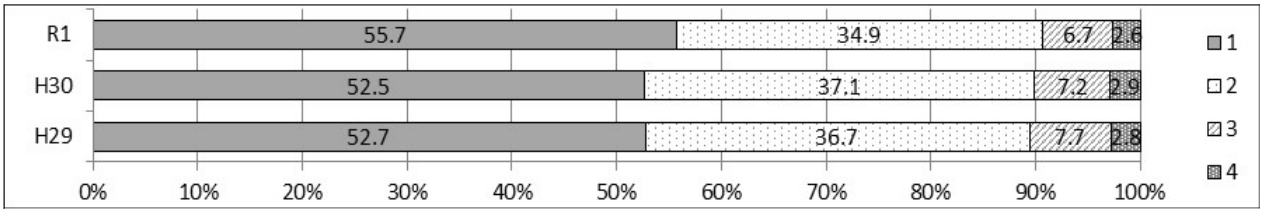
質問事項２　「先生はあなたの話を聞いてくれますか」

《選択肢》　１：当てはまる　　２：どちらかといえば当てはまる
　　３：どちらかといえば当てはまらない　　４：当てはまらない

《小学校５年生》

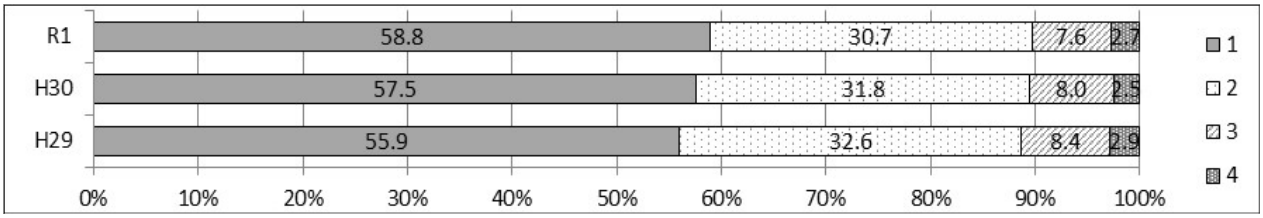



《中学校１年生》

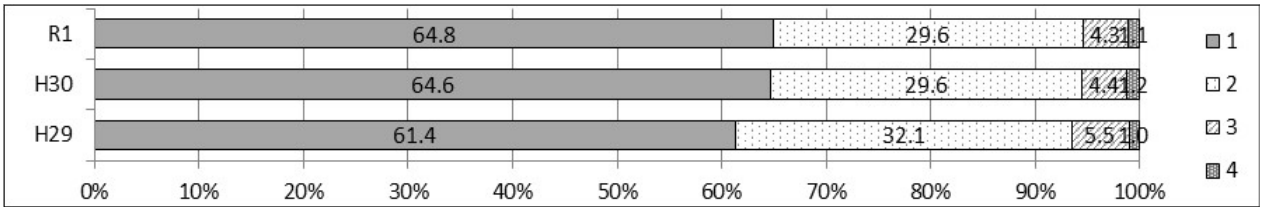


質問事項４　「授業の中で先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか」

《小学校５年生》




《中学校１年生》




〔児童生徒と学校の認識にかい離が見られるもの〕

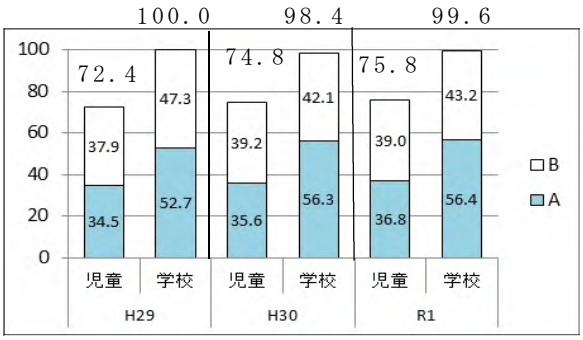
○　学校回答では，「児童生徒に積極的に声を掛け，励ましている」「よい点や可能性を見付け評価している」がほぼ１００％である。

○　しかし，児童生徒の回答では，「先生から声を掛けられたり，励まされたりしますか」「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」という質問に対して，肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）は緩やかに上昇しているものの，７０％程度にとどまっている。(P1 ～ P5)

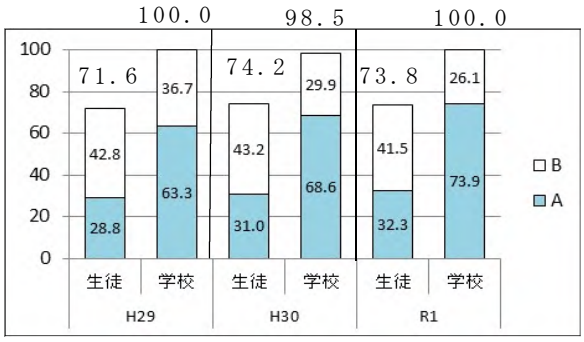
質問事項１（児童生徒）　「先生から声を掛けられたり，励まされたりしますか」

（学校）　「児童生徒一人一人に積極的に声を掛け，励ましましたか」

《小学校５年生》




《中学校１年生》

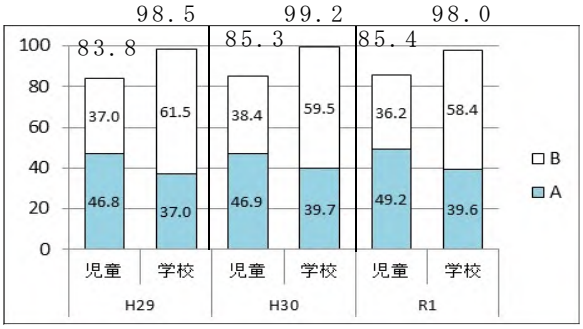



※Ａ：当てはまる　Ｂ：どちらかといえば当てはまる

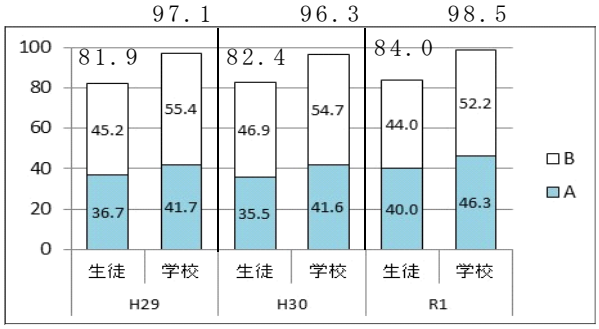
質問事項３（児童生徒）　「先生は，あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」

（学校）　「学校生活の中で，児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け，伝えるなど積極的に評価しましたか」

《小学校５年生》



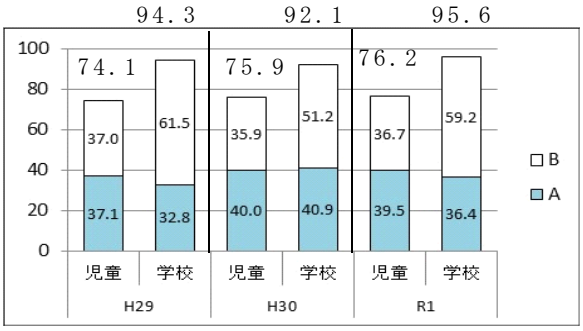

《中学校１年生》



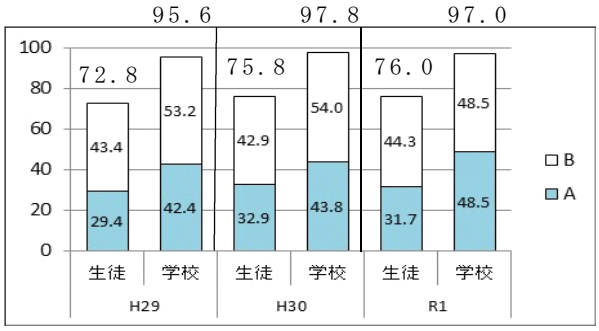

※Ａ：当てはまる　Ｂ：どちらかといえば当てはまる

質問事項５（児童生徒）　「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」
（学校）　「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」

《小学校５年生》




《中学校１年生》




※Ａ：当てはまる　Ｂ：どちらかといえば当てはまる

＜参考＞学力向上に向けた５つの提言
1　どの子供にも積極的に声掛けをするとともに，子供の声に耳を傾けること。
2　子供をほめること，認めること。
3　授業のねらいを明確にするとともに，授業の終末に適用問題や小テスト，授業感想を書く時間を位置付けること。
4　自分の考えをノートにしっかり書かせること。
5　家庭学習の時間を確保すること。

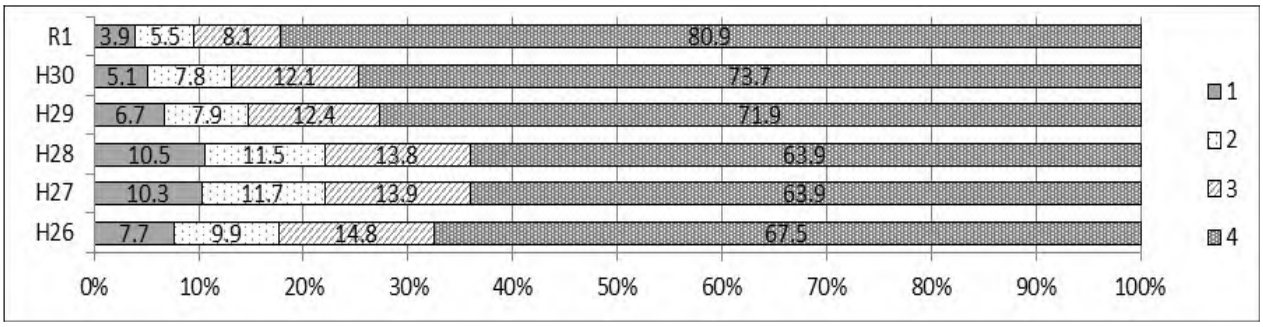
## （２）震災の影響と関連する事項

○　「突然震災を思い出し，気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している小５は９．４％，中１は４．９％であり，未だに震災の影響が見られる。(P6 ，P7)

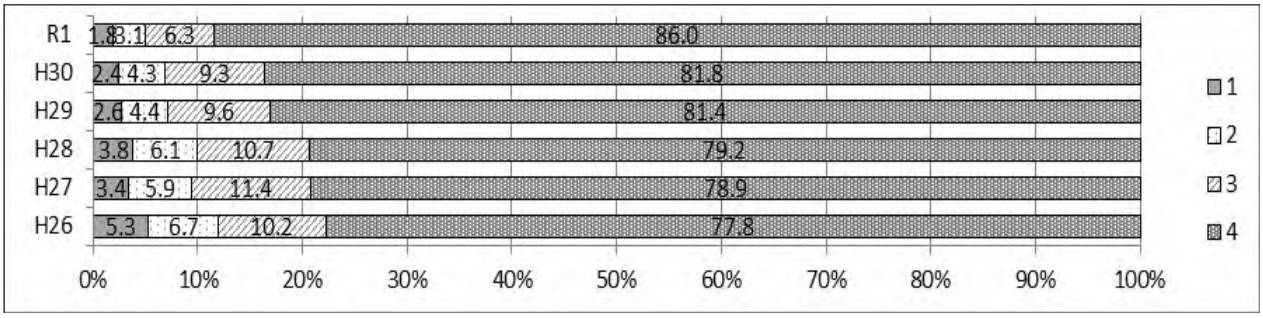
質問事項１３　「突然震災を思い出し，気持ちが落ち着かなくなることがありますか」

《選択肢》　１：当てはまる　２：どちらかといえば当てはまる
３：どちらかといえば当てはまらない　４：当てはまらない

《小学校５年生》




《中学校１年生》（平成２６年から２８年は２年生）



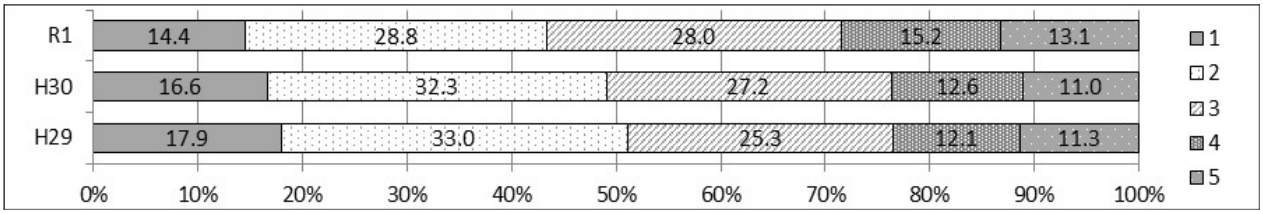
## （３）基本的な生活習慣と関連する事項

○　「平日に１時間以上テレビゲームをしている」と回答している割合は年々上昇し，小５は５６．３％で，中１は５９．３％となっている。
○　「平日に携帯電話やスマートフォンで無料通信アプリを３０分以上使う」と回答している，小５の割合は２９．２％，中１では４４．９％となっている。(P10 ～ P12)

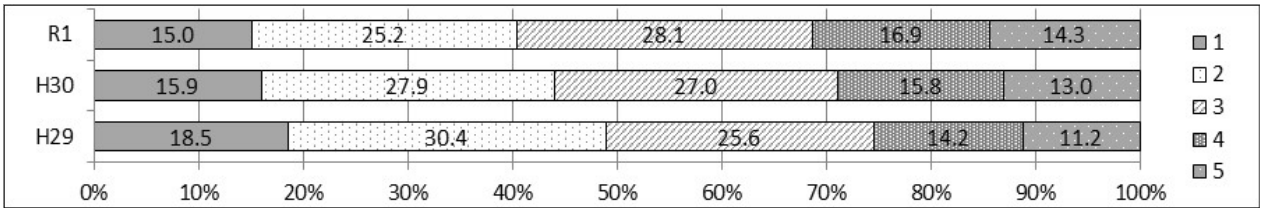
質問事項２２　「平日に，１日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」

《選択肢》　１：全くしない　２：１時間未満　３：１時間以上２時間未満
４：２時間以上３時間未満　５：３時間以上

《小学校５年生》



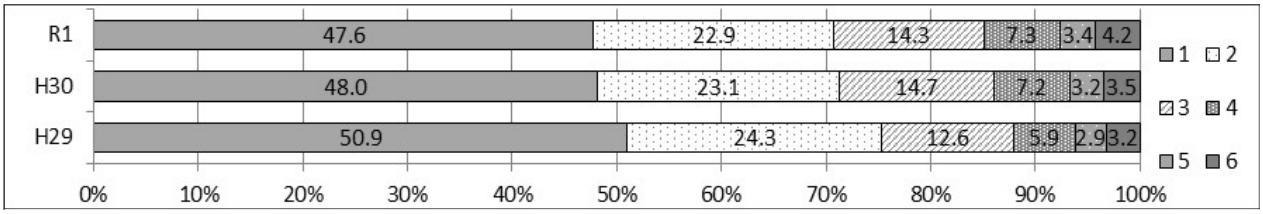

《中学校１年生》



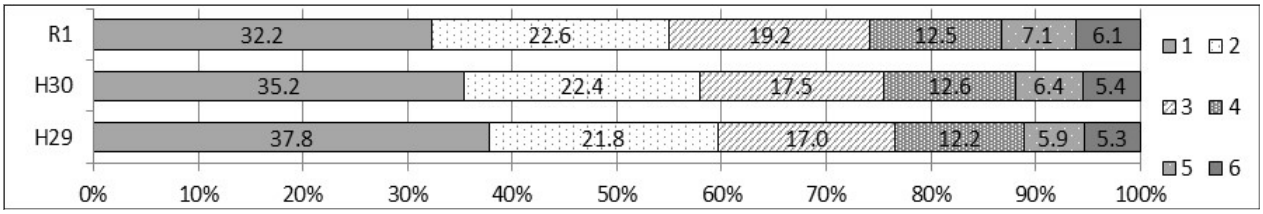

質問事項２４　「平日に，携帯電話やスマートフォンでＬＩＮＥなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか」

《選択肢》　１：全く使わない　２：３０分未満　３：３０分以上１時間未満
４：１時間以上２時間未満　５：２時間以上３時間未満　６：３時間以上

《小学校５年生》




《中学校１年生》



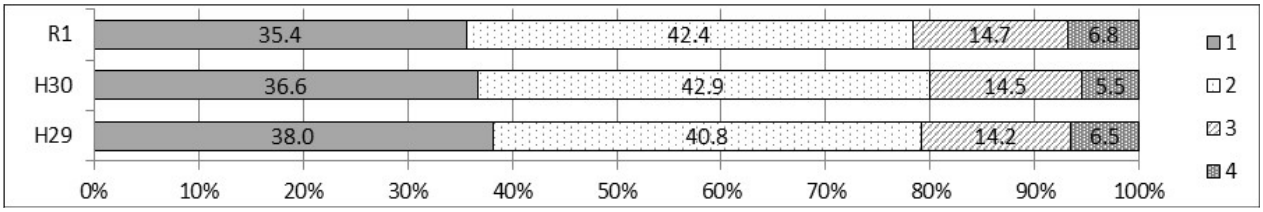
## （４）自尊意識・規範意識と関連する事項

○　「自分には，よいところがあると思いますか」という質問に肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）している小５は若干減少したものの，中１は緩やかに増加し約７５％となっている。
○　「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問への肯定的な回答は，小５，中１ともに９５％を超えている。(P13～16)

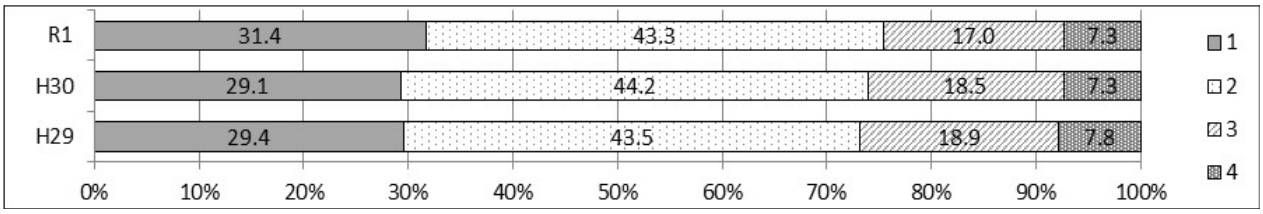
《選択肢》　１：当てはまる　　２：どちらかといえば当てはまる
　　３：どちらかといえば当てはまらない　　４：当てはまらない

質問事項２６　「自分にはよいところがあると思いますか」

《小学校５年生》

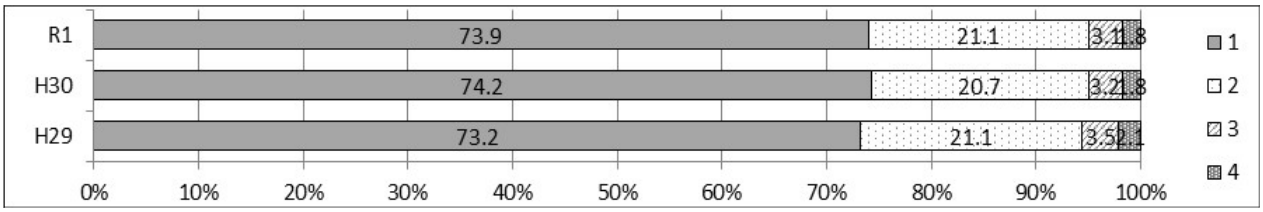



《中学校１年生》

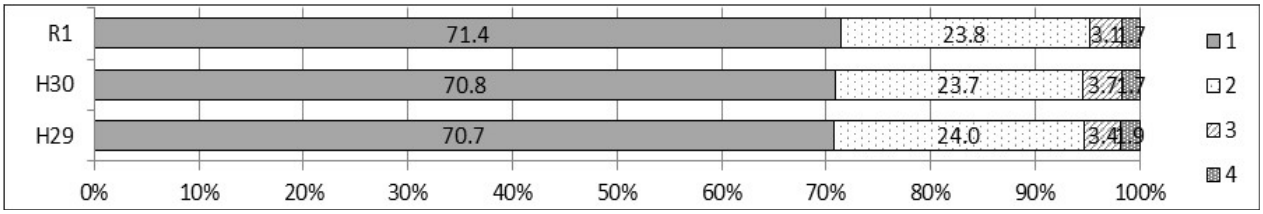



質問事項２９　「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

《小学校５年生》




《中学校１年生》



## ３　課題や意識したいこと

### （１）「学力向上に向けた５つの提言」における認識のかい離等

・児童生徒と学校の認識のかい離が大きいこと

提言１「先生から声を掛けられたり，励まされたりしますか」（児童生徒）
「児童生徒一人一人に積極的に声を掛け，励ましましたか」（学校）

| 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 | |
|---|---|
| 小５　７５．８％ | 学校　９９．６％ |
| 中１　７３．８％ | 学校　１００％ |

・児童生徒の認識に改善が見られないこと

提言３「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」（児童生徒）

| 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 | | | |
|---|---|---|---|
| | Ｈ２９ | Ｈ３０ | Ｒ１ |
| 小５ | ７４．１％ | ７５．９％ | ７６．２％ |
| 中１ | ７２．８％ | ７５．８％ | ７６．０％ |

→ 対応策：児童生徒の認識と教員の働きかけの比較で，質の違いはあるが，かい離があるという事実を受け止めて指導に当たるとともに，児童生徒一人一人が実感できる励ましや認める声がけが求められる。

### （２）望ましい生活習慣を確立すること

・「１時間以上テレビゲームをしている」児童生徒が年々増加していること

| 質問「平日に，１日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Ｈ２９ | Ｈ３０ | Ｒ１ |
| 「１時間以上と答えた割合」 | 小５ | ４８．７％ | ５０．８％ | ５６．８％ |
| | 中１ | ５１．０％ | ５５．８％ | ５９．３％ |

・「３０分以上無料通信アプリを使用している」児童生徒が増加していること

| 質問「平日に，携帯電話やスマートフォンでＬＩＮＥなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか」 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Ｈ２９ | Ｈ３０ | Ｒ１ |
| 「３０分以上と答えた割合」 | 小５ | ２４．６％ | ２８．６％ | ２９．２％ |
| | 中１ | ４０．４％ | ４１．９％ | ４４．９％ |

→ 対応策：「テレビゲームや無料通信アプリにかける時間が増加していること」「家庭学習の時間に良好な変化が見られないこと」などを踏まえ，改善につながる指導を推進していく必要がある。

### （３）震災の影響

・児童生徒が震災の影響を感じていること

| 質問「突然震災を思い出し，気持ちが落ち着かなくなることがありますか」 | |
|---|---|
| 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 | |
| 小５　９．４％ | 中１　４．９％ |

→ 対応策：今までと同様に，児童生徒の様子を細やかに観察し，指導していく必要がある。

## ４　今後の対応

### （１）学力向上対策

・学力向上マネジメント支援事業の推進，市町村教育委員会の取組の好事例を各地域に発信

学力向上マネジメント支援事業として，拠点都市４市教育委員会を支援事業地区に指定し，「全国学力・学習状況調査結果分析を踏まえた授業改善」「カリキュラム・マネジメントの工夫」「小中連携の取組（学習ルール，家庭学習ルール等の共有）」などについて実践的に研究している。ここで得られた成果「学力向上マネジメントみやぎ方式」や，市町村教育委員会の取組の好事例を各地域に発信していく。

・児童生徒の学習意識等調査「学力向上に向けた５つの提言」についての継続的実践に対する支援

「児童生徒の学習意識等調査」の「学力向上に向けた５つの提言」に関する部分について，必要に応じて児童生徒及び教員が確認できるようにし，実態を踏まえた指導改善や共通行動が図れるよう，支援していく。

・スマートフォンの適正な利用に関する効果研究の実施
　スマートフォンの適正利用と基本的生活習慣を身に付けさせることが，児童生徒の学力及び体力の向上にどのような効果が見られるかを検証していく。

**（２）志教育の推進**

・「志教育支援事業」の充実
　児童生徒が，将来社会人，職業人として自立する上で必要な能力や態度を育てるとともに，主体的に学ぶ意欲を高めるため，次年度も志教育を推進していく。「志教育支援事業」では，推進地区を指定し，その成果を発信する。また，「みやぎの先人集『未来への架け橋』」の活用事例なども周知し，生き方について考える機会とする。

**（３）「行きたくなる学校づくり」の推進**

・みやぎ「行きたくなる学校づくり」推進事業の推進及びみやぎ「行きたくなる学校づくり」研修会の開催
　行きたくなる学校をつくる観点から校内の取組を見直し，改善を図るための手法の普及に努めていく。

**（４）心のケア対策**

・みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業の推進
　不登校や不登校傾向及びいじめ等により，学校生活に困難を抱えている児童生徒の学校復帰や自立支援を目的として市町村が行う体制整備を支援していく。
・スクールソーシャルワーカー活用事業の推進
　東日本大震災により児童生徒に影響を及ぼしている家庭・学校・地域など，様々な環境の改善に向けて，スクールソーシャルワーカーを全ての市町村に配置する。